

第4章 計画の展開

基本目標Ⅰ：住民と共にすすめる「ささえあい」の地域づくり

基本方針（１）住民がお互いを思いやり、ささえあう地域づくり

【現状と課題】

近年、福祉に関する公的な制度やサービスは充実・強化されてきました。しかし、公的な制度の整備だけですべての地域課題が解決するわけではありません。孤立や孤独などを背負い、現行の制度では支えられない社会問題は今も存在しています。

すべての地域課題に公的な制度だけで対応していくことは難しく、こうした地域課題への対応として専門職と連携した住民同士のささえあいなど公と民の協働の仕組みが求められています。また大規模災害への備えや発災時の支援としても住民同士のささえあいや助け合いが有効な活動として考えられ、瑞穂町においても推進されています。

【今後の取り組み】

①世代を通じた福祉教育の実施～「福祉の心」の推進をめざして

福祉の町づくりを推進するためには、地域福祉を担う人材を発掘・育成し、福祉の理解者、協力者を拡大していくことが必要です。

地域イベントや学校など様々な場を通じて、幅広い世代に福祉活動やボランティアに関する学習や体験の機会を設け「ささえあい」や「ふれあい」の大切さを推進し「福祉の心」を育んでいきます。

②地域住民との地域懇談会や事例検討会の定期的な開催

地域住民と社協が一体となって地域の課題を発見、共有し解決できる仕組みを構築していきます。

地域懇談会や地域包括ケア会議などで事例検討を行い公的な制度の有効利用や制度では解決できない部分についても話しあい、地域の課題を顕在化することで新たな社会資源の発見や開発に結びつけていきます。



夏・体験ボランティア